

2020年オープン・キャンパス 商学部 学部説明



HITOTSUBASHI
UNIVERSITY

本日のプログラム



I. 学部長挨拶 田中 一弘 商学部長

II. 商学部の概要と特徴 上原 渉 准教授

III. 模擬講義 河内山 拓磨 准教授

IV. 学部生によるパネル討論

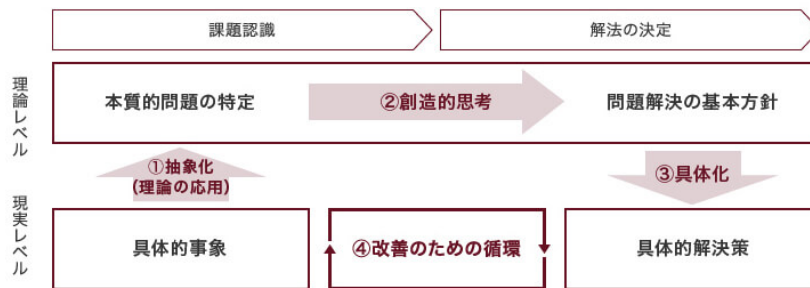
モデレータ: 佐々木 将人 准教授

商学部の目的

【商学部の目的】 未解決の問題に取り組み、日本とアジア・世界経済の発展に貢献しようという情熱を持ち、**客観的な分析力と深い思考力を兼ね備えた高度専門職業人の育成**

【商学部の使命】 企業経営に関心を持ち、現実を観察して自ら問題を設定し、**理論・思考と現実の往復運動**を繰り返しながら解決策を導き実行に移すことのできる人材を社会に輩出

理論と現実の往復運動のイメージ



「強い実践志向」と「高い国際性」に裏打ちされた人材



商学部のミッション・ステートメント



HITOTSUBASHI
UNIVERSITY

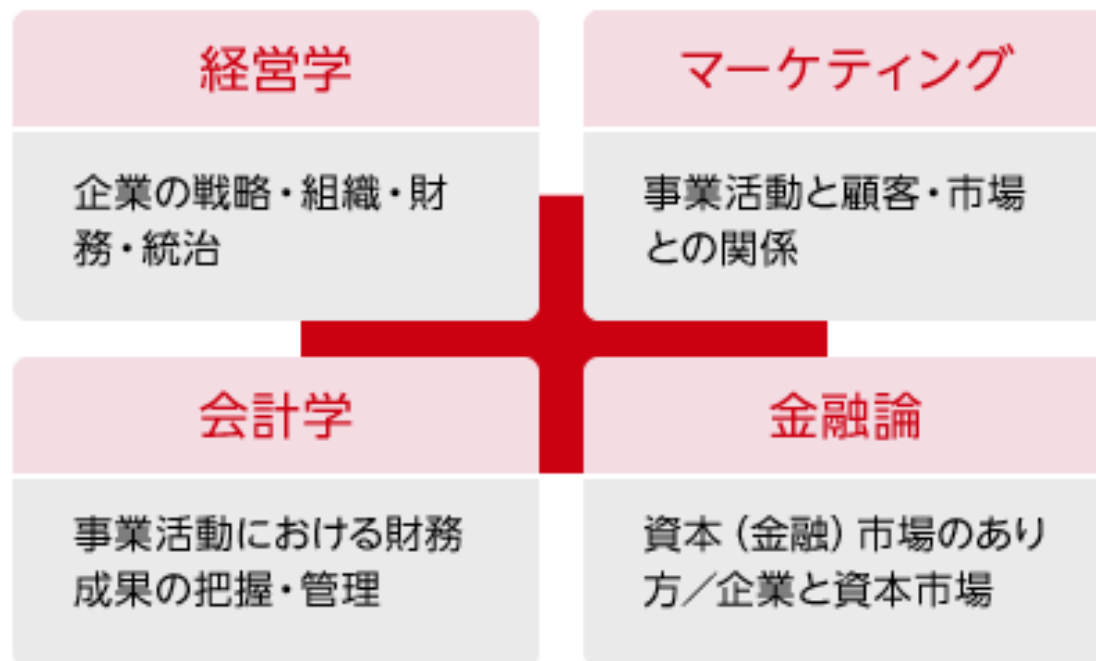


**WE FOSTER CAPTAINS OF INDUSTRY
WHO CREATE VALUE FOR BUSINESS
AND SERVE COMMUNITIES IN ASIA.**

洞察ある知識と効果的なコミュニケーション・スキルを併せ持つリーダーを育成する。
創造性と高度な専門的スキルを併せ持つプロフェッショナルを育成する。
他者を思いやりグローバルな視野を持つコミュニティ志向の市民を育成する。

渋沢栄一『論語と算盤』: 営利活動と倫理・道徳の両立
「論語(Integrity)」と「算盤(Innovation)」を両立できるリーダー(Leadership)の育成

商学部の主要4領域



- ・どのような事業戦略を展開するか？→**経営学**
- ・どのような製品を企画して、販売するか？→**マーケティング**
- ・そのために必要な資金をどのように調達するか？→**金融論**
- ・そのような努力によって、どれだけの売上や利益が上がったのか？→**会計学**

商学部の基本方針

商学部教育の両輪:「講義」と「ゼミナール」

(1) 学年に合わせた段階別の学部教育科目

学部導入科目 (1年生必修)

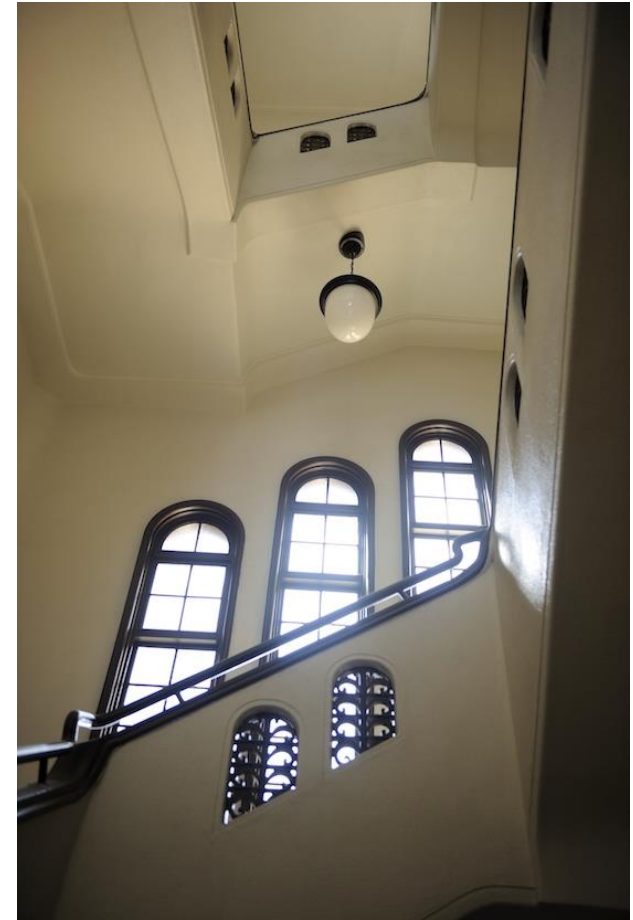
経営学入門, マーケティング入門, 会計学入門, 金融入門, ビジネス・エコノミクス入門

学部基礎科目 (2年生から履修)

経営組織論, 経営戦略論, 経営史, 消費者行動, マーケティング・マネジメント, 原価計算, 財務会計(中級), 管理会計, コーポレート・ファイナンス, 資産価格論 など

学部発展科目 (3年生から履修)

労務管理論, 国際経営, マーケティング・コミュニケーション, 流通, 財務諸表分析, 財務会計(上級), 金融システム論, 金融数理論, リスクマネジメント など



商学部の基本方針

商学部教育の両輪:「講義」と「ゼミナール」

(2) 4年間にわたるゼミ教育

導入ゼミナールⅠ・Ⅱ (1年次)

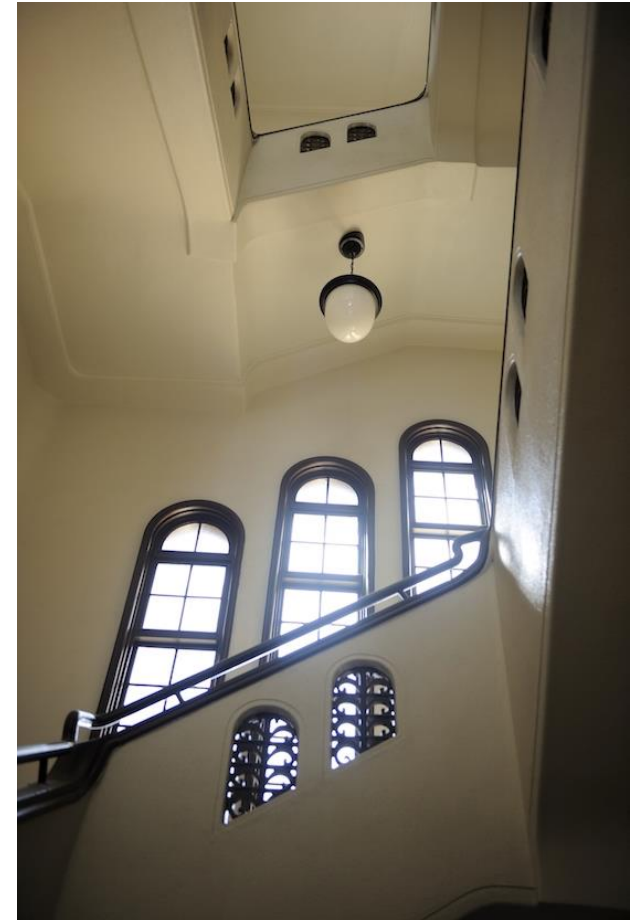
専門知識を学ぶ上で基盤となる「読む・書く・考える」能力を修得

前期ゼミナールⅠ・Ⅱ (2年次)

英語の文献から専門知識を学ぶために必要となる基本的な能力を修得

後期ゼミナール (3,4年次)

学生自身が選んだ専門領域について、15名程度のゼミテンと一緒に研究し卒業論文を執筆



本学の伝統：ゼミの商学部

■ 略史

- 1897(明治30年):ゼミ制度
- 1904~1918(明治37年~大正7年):福田徳三による千駄ヶ谷読書会
- 1920(大正9年):公式な制度としてのゼミ

「強い実践志向」と「高い国際性」に裏打ちされた人材

実践志向:学んだことを単に知識レベルにとどめることなく、直面する問題の解決に向けその知性を創造的に動員し、解決の実現に向けて自らコミットすること
国際性:使用言語や文化的背景の相違に制約されることなく自らの能力を発揮できること

■ ちなみに、ゼミはゼミナール (Seminar:ドイツ語)の略。

- 一橋では、ゼミに所属する学生のことを「ゼミテン」と呼んでいます。これは、ドイツ語Seminaristの複数形Seminaristenに由来しています。

【少人数のゼミナール教育】入学時から卒業時まで4年間ゼミナールに所属し、教員および他の学生との濃密な対話を通じて「読み・書き・考える」という知的トレーニングを重ねる

ゼミの様子



HITOTSUBASHI
UNIVERSITY



海外で学ぶ: 大学全体の制度

■ 一橋大学海外派遣留学制度

- 如水会(本学OB・OG組織)などの支援により、海外の大学で学ぶ機会を得られる制度。
- 渡航費・生活費などが支給されます。

→この制度の利用者以外も含めて、例年は30名以上の商学部生が海外の大学に留学しています。

海外大学への留学者数	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
商学部	35	30	40	33
全学部	113	112	120	100

■ 短期研修(短期海外研修／海外語学研修)

- 大学が主催する短期滞在プログラム(約1ヶ月)。
- 費用は自己負担です。

短期留学プログラムの参加学生数	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
商学部	66	71	78	68
全学部	239	318	313	313

詳細については、
<http://international.hit-u.ac.jp/>
をご覧ください。

海外で学ぶ



HITOTSUBASHI
UNIVERSITY



- **GLP(グローバル・リーダーズ・プログラム)**
 - 使用言語や文化的背景の相違に制約されることなく、グローバルな環境でCaptains of Industryとして活躍する国際的な人材を育成するために、各学部に設置されたプログラム
- **商学部のGLP: 渋沢スカラープログラム(SSP)**
 - 1年次の終わりに約15名の学生を選抜
 - 2年次から英語によるゼミナールや長期の海外留学を通じ、国際的なビジネスの場で必要とされる論理的思考力や分析力を養成
 - SSP修了生には「渋沢スカラープログラム修了証(サーティフィケート)」を授与
- **GLP科目**
 - 英語による専門講義(SSP生以外は、3年次以降履修可能)


HITOTSUBASHI UNIVERSITY
**SHIBUSAWA
SCHOLAR PROGRAM**



詳細については、
<http://ssp.cm.hit-u.ac.jp>
をご覧ください。

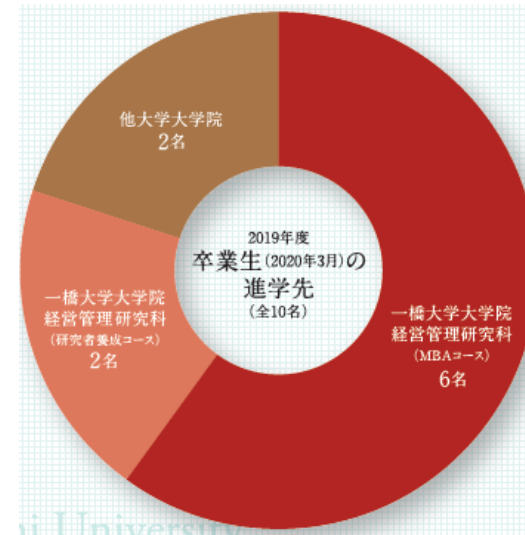
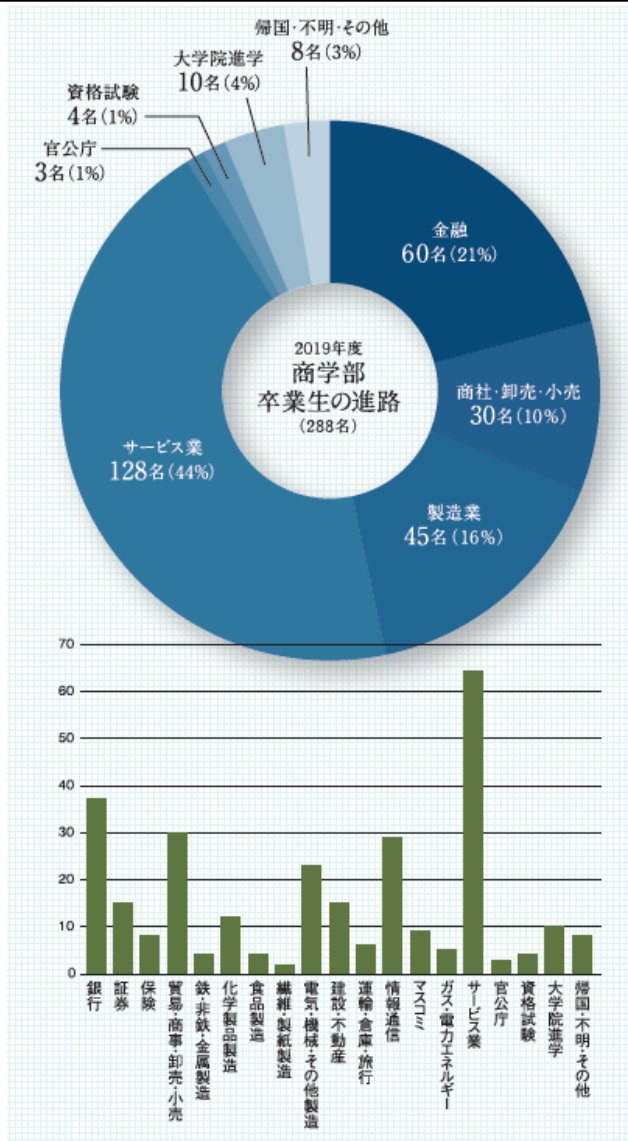
データ・デザイン・プログラム

- データ・デザイン・プログラムを、2021年4月に開講予定
 - 募集・選考による30名程度を予定(商学部生を中心に他学部生も受講可)

- **コンピュータ・サイエンス**と**デザイン思考**を融合した「新しい情報学」に基づくサーティフィケート・プログラム
 - 文系・理系という区分や、商学・経済学・法学・社会学といった学術領域の枠を超えて、企業経営や起業の考え方や知識・スキルを学べる
 - 2年次から4年次までに、従来の専門科目と並行して履修し、所定の単位を修得するとサーティフィケート(修了証)を授与

- プログラムを構成する科目
 - **人工知能(AI)**や**プログラミング**などの情報系科目と、**デザイン経営**や**メディア&サービスデザイン**などのデザイン系科目が中核となる科目
 - 芸術系大学や民間企業等と連携した実践科目やワークショップ、海外大学の教員を招聘した特別講義などを設置予定

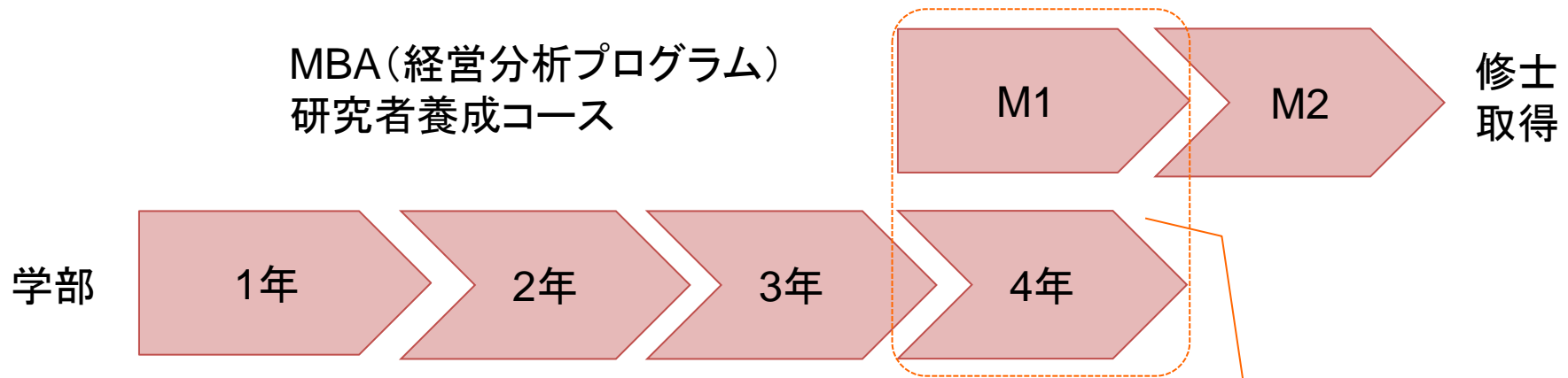
進路: 卒業生の進路(2020年3月卒業)



詳細については、
<http://www.cm.hit-u.ac.jp/career/>
 をご覧下さい。

進学:5年一貫教育プログラム

- 成績優秀者は、選考を経た上で、学部4年次から修士課程(経営分析プログラム、研究者養成コース)に事実上の編入をすることが可能です。
- 学部4年次に修士課程の講義を受けておくことで、修士課程を1年間で修了します。学部入学から数えて合計5年間で修士の学位を取得します。
- 定員:経営分析プログラム10名程度、研究者養成コース5名程度。



多くの成績優秀者は4年次には卒業論文を残すだけとなっています。そこで5年一貫教育プログラムの学生は、4年次から修士課程の講義を受講可能とします。学部卒業と同時に修士課程に進学しますが、既に4年次に1年分取り終えているので、学部入学から数えて5年間で修士の修得となります。

商学部の入試制度



HITOTSUBASHI
UNIVERSITY

- 一般選抜
 - 前期日程のみで実施

- 学校推薦型選抜
 - 英語や数学などで卓越した能力を有する高校生向け

- 外国学校出身者選抜

- 私費外国人留学生選抜



詳細については、
<http://www.cm.hit-u.ac.jp/admission/>
をご覧ください。

一橋大学商学部は、「強い実践志向」と「高い国際性」を修得し、社会で活躍する基礎を築きたい皆さんに入学して頂きたいと考えています。



HITOTSUBASHI
UNIVERSITY

